本学教員執筆書籍の紹介

盛永審一郎・松島哲久編　　藤尾　均　ほか執筆

医学生のための生命倫理

丸善出版株式会社　2012 年 9 月 30 日初版　A 5 判　262 ページ　2800 円＋税

藤　尾　　均

本書はタイトルの通り、医学生向けの生命倫理のテキストブックであり、執筆者は総勢 25 名に及ぶ。当初、私はメンバーではなく、ある執筆予定者が諸般の事情で降板したためにお鉢が回ってきたという次第である。そんな経緯もあり、執筆について畏友の盛永審一郎氏（富山大学教授）から相談があったときは、あまり気乗りがしなかった。この種の本はすでに多数出版され、私が関係したものだけでも『生命倫理のキーワード』（理想社）や『医療倫理Ｑ＆Ａ』（太陽出版）があって、類書は枚挙にいとまがないからである。

正直、お断りしようかとも思ったが、そうしなかったのは、東大の金森修教授・清水哲郎特任教授をはじめとする私以外の豪華執筆陣の顔ぶれに、言い知れぬ魅力を感じたからである。実際、出来上がったテキストの叙述は魅力的である。盛永氏の「まえがき」にもあるように、「個性（灰汁（あく））の強い教員たちが情熱をかけて執筆している」ので「全体として統一に欠けるきらいがある」ことは事実であるが、逆に、だからこそ、読者は執筆陣の強烈な個性を存分に味比べできる。「Ａ氏が書いたこの項目をもしＢ氏が書いていたら、全く異なる内容になっていただろう」と、しばしば思わされる。そういう意味でこれほど興味深い本は、類書には見当たらないように思われる。

25 名の内訳は、医学部卒業者が 4 名、その他（主として文学部卒業者）が 21 名である。また、医学部・薬学部をはじめとする医療系大学や医療機関の所属スタッフが 14 名、その他が 11 名である。こうした出身学部や所属先の違い、総じて立場の違いが、意識的にせよ無意識的にせよ、叙述に色濃く反映しているといえる。そういう意味では、国家試験対策等に資するために努めて「客観的」叙述を求めようとする医学生にとっては、いささか期待はずれな本かもしれない。とはいえ、倫理関係の本では所詮、いわゆる「客観的」叙述はあり得ないのだと割り切っていただくしかないようにも思われる。

ともあれ目次を紹介しよう。　―　序章　なぜ生命倫理を学ぶのか　１章　生命倫理の方法と医療倫理　２章　患者の権利と生命倫理　３章　臨床研究の倫理　４章　医師の倫理　５章　臨床倫理　６章　薬害と医療事故　７章　生殖医療と生命倫理　８章　脳死・臓器移植と生命倫理　９章　終末期医療と生命倫理　10 章　先進医療と生命倫理

このうち私が関係したのは 4 章で、本章の叙述を服部健司氏とシェアした。服部氏は旭川医大 6 期卒業生で、精神科医として活躍しながら早大大学院で哲学を専攻し、現在は群馬大学の医学哲学・医学倫理学の教授である。旭川医大在学中は岡田雅勝教授の薫陶を受けられた。こうして御一緒させていただけたのは奇しき因縁である。

私に与えられた大テーマは「医学教育の歴史と現在・未来」「世界の医学教育と日本の医学倫理教育」「国際医療」であり、どの分野も私の専門とは言い難いが、歴史学者の端くれの立場から、歴史的経緯を踏まえた叙述を心掛けた。ちなみに服部氏が担当した大テーマは、「医療者と倫理」「法令の構成と医師関連法規」「医師の役割と医師法」「世界の医師倫理規定」である。

確かに執筆者の個性（灰汁）の強さはあるが、本書には生命倫理の現状と課題とがコンパクトに整理されていることもまた事実である。医学生だけでなく多くの医療関係者にも、思索の糧として読んでいただければ幸いである。

（旭川医科大学　歴史・哲学）